

南病棟 6 階

(泌尿器科、免疫膠原病内科、リウマチセンター、)

1. 看護単位の概要

病 床 数 48 床

泌尿器科 30 床 免疫膠原病内科 14 床 共通 4 床

2. 病棟の特徴

1) 泌尿器科

腎臓・尿管・膀胱・前立腺・精巣など尿路系の疾患を対象にしており、その殆どが悪性腫瘍であり、当病棟では、外科的治療に加え、化学療法・免疫療法・内分泌療法・分子標的薬物療法・放射線治療を組み合わせた集学的治療を実施している。そのため、一般的な周術期や化学療法だけでなく、悪性腫瘍に対する網羅的な治療の知識に加え、退院後の生活を視野に入れたストマケアの指導や、ターミナル期の患者・家族に対する個別性に合わせたケアをタイムリーに行うことが求められている。また、重症の尿路感染による緊急入院や水腎症に対する緊急腎造設、精巣腫瘍に対する精巣摘除術など、緊急処置への対応も多数実施している。また、2022 年度から腎移植が増加しており、移植医療に対する知識も必要とされている。高齢者の患者が多いことから、安全・安心な入院生活を送れるよう努めると共に、入院時から退院後の生活を予測し、地域ネットワークと連携し早期からの介入を行う患者が多い。

2) 免疫膠原病内科

免疫異常を基盤とする膠原病、自己免疫疾患、リウマチ疾患、アレルギー疾患など多臓器に障害がおこる全身性疾患のため、看護師は、様々な症状に応じた看護実践が求められる。入院早期から退院後の生活を見据えた支援が必要になることも多く、他職種との連携が不可欠である。

3) リウマチセンター

全身の関節炎をきたす関節リウマチを早期に診断し、強力な治療介入を行うことによって速やかに寛解を目指すことを目的としている。免疫・膠原病内科と整形外科が連携して診療を行っている。生物製剤をはじめ新たな治療を取り入れながら、疾患と向きあう患者をサポートする看護師の役割は大きく、専門的な知識と技術が求められる。